

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和6年度第6回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会を次のとおり開催しました。

令和7年3月25日

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

1 開催日時

令和7年3月18日（火） 午後4時～午後5時10分

2 開催場所

宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール

3 議題

- (1) 第2期総合戦略令和5年度実績評価検証報告書について
- (2) 令和6年度ワークショップ（SWOT分析）の結果について
- (3) 令和6年度市民推進委員会の開催結果について

4 会議の概要

別添のとおり

5 問い合わせ先

企画部企画課地域創生推進室 電話0193-65-7056

令和6年度第6回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

1 出席者（11名）

和川央、武藤勝久、三河輝夫、花坂雄大、赤沼喜典、川又講平、長岡輝、赤沼悦子、井川由貴子、石川巧、成瀬賢紘

2 欠席者（14名）

芳賀桃子、山本美鈴、渡部玲子、上野宏介、鈴木ちほ、井田裕基、佐々木秀崇、村木海公、伊東喜幸、加藤洋一郎、菅野悟、中沢翔馬、伊藤雄基、伊藤綾

3 事務局出席者（3名）

企画部長 多田康、企画課長 箱石剛、同課地域創生推進室長 竹田真吾

4 傍聴者

なし

5 議事等

(1) 第2期総合戦略令和5年度実績評価検証報告書について

市民推進委員会及び議会から寄せられた報告書案への意見を踏まえた報告書について事務局から説明した。質疑等は詳細のとおり。

(2) 令和6年度ワークショップ（SWOT分析）の結果について

令和6年度に実施したワークショップで取りまとめられた意見とこれに対する市の取組み内容や今後の方針等について事務局から説明した。質疑等は詳細のとおり。

(3) 令和6年度市民推進委員会の開催結果について

令和6年度市民推進委員会における審議事項等について振り返りを行い、1年間の取組みに対する感想や今後の会議の進め方等への意見を交換した。意見等は詳細のとおり。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【議題(1)「第2期総合戦略令和5年度実績評価検証報告書について」】</p> <p>(委員) 議会への配布のタイミングはいつか。</p> <p>(委員) 新年度予算審議への活用等も考慮すると、今後は配付、公表までのスケジュールをもう少し早められると良い。(意見)</p> <p>【議題(2)「令和6年度ワークショップ(SWOT分析)の結果について」】</p> <p>(委員) 市が現在行っている新規出店支援の取組みではどのような事業者が活用されているか。</p> <p>(委員) 今回ワークショップで「発信力が弱い」というところが議論された。この課題については、しっかりとした整理が必要。「誰に」「何処に」「何を」「どうやって」と整理して考察していくことが重要。</p> <p>(委員) 「発信力が弱い」という問題は自治体側の視点に立ったもの。目線をユーザー側に移すことで「誰に」「なんの情報」「なぜ入手できない」といった問題を発見するヒントにつながるものと思う。(意見)</p> <p>(委員) 観光分野における取組の方針にある「動態</p>	<p>(事務局) 3月定例会閉会後に、書面での個別配付となる。</p> <p>(事務局) 具体の数字は本日持ち合わせていないが、市中心地の状況を見ると比較的飲食店は新規出店が多い業種と感じている。</p> <p>(事務局) 市の広報のように全市民というターゲットに必要な情報を、不足なく伝達する性質のものもあれば、移住希望者など市外居住者が必要な情報をインターネット等を通じて発信するものなど、発信という行動は様々である。市としてもまだまだ検証が必要なテーマと捉えている。</p> <p>(委員) 通常、各観光ポイントにおいて、時期を選</p>

調査」というものはどのような調査を想定しているか。

【議題(1)「令和6年度市民推進委員会の開催結果について」】

※資料に対する質疑意見等はなし。

※以下、各委員から1年間を振り返っての感想や今後の会議の進め方等に関する意見を列挙

(委員)

戦略の推進については「まち」「ひと」「しごと」それぞれをリンクさせて推進するという考え方と、例えば「しごと」に特化して推進していく考え方と様々あると思うが、どの考え方が良いのか悩むところと感じた。

今年度審議されたものが計画等各所に成果として反映されたものと思う。

SWOT分析によるワークショップは良い取組みと感じた。

(委員)

専門である林業分野の意見もしたかったが、今年度は人口減や地域の活性化といった幅広いテーマがメインとなり、一市民目線での意見が多かった。ワークショップの後半は主に地域の活性化に目を向けたも話題が多かったように感じるが、人口減少への視点が重要と思う。もっと人口減少への議論を深く議論できればと思う。

(委員)

現総合戦略のKPIの達成状況は著しく

定して現地調査を行うことが主流。

(委員)

観光DMO事業ではこのほか、Webを活用して観光客のクレジットカード利用場所やGPSなどの位置情報を収集可能。このようなデータを活用して戦略につなげる可能性もある。

低い。2期にわたる取組みで成果が上がらない現状には何らかの理由がある。1自治体の取組みの良し悪しではなく、地方レベル、国レベルでも原因がある問題と思う。人口減少により近い将来に現在と違うまちの姿があるかもしれない。

今後については、各部門から選任されている委員の持ち味をもっと活かせる議論の進め方になれば良いと思う。どうしても行政と民間といった図式で審議を進めがちとなってしまうものを、行政と民間が一緒に、より良い方向へ進めていく空気感が重要と思う。

(委員)

今年度は観光分野について多くの議論が展開され、大変参考になった。

(委員)

今年度、ワークショップ等を通じて色々な意見が交わされた。これこそが審議会の成果だと思う。意見の全てを実現するのは現実的には厳しいところもあると思うが、様々な意見の中からより良いものが取り上げられ、それがまちづくりに繋がることを期待したい。

(委員)

SWOT分析では弱みの要素が多く上がった。自身が転勤で宮古に来たが、弱みと感じている部分が外の地域から見ると長所ということもあるのではと感じる。

外からの見方は違うこともあるので、戦略を進めるうえではそういった視点で考えることも重要ではと思う。

(委員)

宮古は良いところだが、その良さを伝える力に課題があると感じている。

SWOT分析では自分の考えにない意見

が聞けて良い経験となった。

宮古を良くしたい思いは同じ。今後も市民皆で取り組めればと思う。

(委員)

若者をターゲットにした議論は難しかった。委員会での議論の結果を若者の皆がどう感じるかが大切。

人口減少を職場でも肌で感じている。宮古市の子育て支援は非常に充実している。にもかかわらず毎年、子育て世帯が宮古を離れていくのはなぜだろうと自分自身も考えるところがある。

審議会での議論が実際の行動につながり、良い方向に向かえばと思う。

(委員)

川井地区では若者の地元離れだけでなく、高齢者も病院受診の事情等で地元を離れ盛岡市等へ転出するケースも出てきた。

本委員会での議論や意見がなかなか改善として目に見えない。地域に住む者としてもどうしたら改善するのか考えながら日々を過ごしている。

少ない人口でも、住みよいまちづくりを進める必要もある。

(委員)

自身が宮古に移住して数年が経った。今後も引き続き移住希望者へ宮古市の良さを発信していきたい。

(委員)

事務局においては、丁寧な資料の作成など会のスムーズな進行に尽力いただいた。また委員の皆様においてはワークショップの開催が多かった中、ご参加いただき様々な意見をいただいた。

<p>来年度からの新たな計画が策定となったが、計画を推進するのは市役所だけが頑張っても難しい。民間と一緒に取り組む必要がある。委員の皆様においては、個々に取り組みの周知を図るなど、市民全体で目標に向かって進めていただければと思う。</p>	
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--